つるさき

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
URL
http://turusaki2.web.fc2.com/

平成30年7月豪雨で被害に遭われた氏子の皆様方に謹んでお見舞い申し上げます

表参道に列ぶ金色の神輿／平成17年神幸祭

「子供」と「子ども」

近年教育現場を中心に「こども」の標記を「子供」から「子ども」と表記するのが正しいという風潮が見受けられます。

その理由としては、「供」という漢字が「お供」＝こどもが大人の付随物として連想されるとか、「お供え物」＝古代に子供を神の生贄とした事を連想させるとかという憶測の理由で差別的であるとしています。

しかし、日本語の漢字一字を取り上げてその文字が差別的であるとして問題にするならば、「児童」の「童」には「しもべ」、「愚か」という意味があるので「児どう」と書かなくてはならなくなり、日本語そのものが成り立たなくなってしまいます。

「こども」という漢字は広辞苑にも「子供」と表記されており、平成二十五年には文部科学省が子供と表記する事は差別表現ではないとの見解を示し、公用文書では「子供」の表記に統一しました。

「子供」を「子ども」と表記する事は自由ですが、「子ども」と表記する理由は前述の通り、余りにも稚拙な考えで生み出された「混ぜ字」のような日本語であるという事を理解の上で使用するように願うばかりです。

安原伝兵衛物語

11

御師の衣裳を脱ぎ、半袖単衣に手拭いの頬かぶり、縄帯をしめ、松入という藁作りの道具入れを腰につけ、足半という短い草履をはくのが作業姿だ。新米の仕事は負子で、掘った鏈（鉱石）を叺に入れて入口まで運ぶ。間歩の明かりは、さざえの貝殻に油を入れて綿灯でひたして火をつける。薄暗い間歩での作業に怪我はつきものだ。

地下深く掘り進むと地下水が湧き、それが手に負えなくなると廃れ間歩となってしまう。水汲みも負子の仕事だ。掘子は堅い岩盤を鏨で削るように掘る。一昼夜で掘り進む距離は三、四十センチに過ぎず実に根気を要する作業だ。

若い伝兵衛は仕事を覚えるのも早く体力もあった。孫一が伝兵衛を高く評価したのは、根気があることに加えて鉱脈を探す勘がいい点だった。

錦織間歩に来て四年が過ぎ、一人前の掘子になった。早島を立つ時、おかァに渡した銭五貫も底をつく頃だった。掘子をして稼いだ銭を送金したいと考えている。幸い豊臣秀吉の天下統一が進むと、石見銀山の両替商兼飛脚宿から何処へでも送金が可能になった。送金手数料を払って送金すると余裕がなくなり遊ぶことができない。

銀山町では男が歩けば妓楼にぶつかると言われるほど遊女屋が多い。遊女の数は男の数を上回ると言われた。

間歩で苛酷な労働をする男たちの唯一の楽しみは登楼することで、稼ぎをつぎ込んでしまう。誘っても絶対登楼しない伝兵衛は変わり者で通っていた。女嫌いの伝兵衛とか、男女じゃとか陰口をたたかれた。

救ってくれたのは孫一だ。孫一は遊女を買うのを生き甲斐としている男だけど「伝兵衛が変わり者なら儂も変わり者だけん。人はそれぞれ好きなもんが違うけんな。陰口たたくのはやめさっしゃい」

孫一のひと言で、いじめは熄んだ。

伝兵衛には孫一も知らない秘密があった。

り水観音が時折伝兵衛の夢枕に立つことだ。石見銀山の清水寺にも十一面観音菩薩の御像があると知り拝観して伝兵衛の信仰心は更に深まった。

清水寺は、尾紅孫右衛門の頃から仙の山の天辺にあり当時は天池寺と言った。安原伝兵衛の頃は清水寺と寺名を変え清水谷に移り、明治以降は休谷に移り現在に至る。

山師錦織弥太夫の多数の掘子の中で、伝兵衛には特別の想いがある。十六、七歳の馬子が自分を慕って、はるばる遠国から苦難をのり越え入山した事だけでも驚きだった。

今では一人前の掘子に成長した。手塩にかけた弟子がやがては掘子を卒業し山師になるのを秘かに期待していた。そんな弥太夫の思惑を知ってか知らずか若い伝兵衛には野心がない。

父が失った田圃を取り戻せたら早島へ帰ろうと思っていた。継続して送金して実現できそうだ。おばァは亡くなり、おかァも寄る年波で気が弱くなった。上の妹は嫁ぎ、下の妹は婿を取った。歳月が状況を徐々に変え、伝兵衛の気持ちも変わろうとしていた。

文禄元年（一五九二）三月一日、豊臣秀吉が朝鮮征伐を宣言、いわゆる文禄の役がはじまり、その影響で伝兵衛の帰郷は中止になった。三十万人を動員する海外出兵には膨大な資金が必要で、豊臣政権から直轄地の生野銀山はもとより、毛利と共同経営の石見銀山にも増産命令がきた。

奉行は要請に応じて、肝入り給（補助金）を出し、新規の間歩や山師を求めた。錦織弥太夫が真っ先に推挙したのは安原伝兵衛だった。

孫一は我が事のように喜んでくれた。伝兵衛の帰郷は先に延びた。

七五三詣り

本年は下記の年齢の子供が七五三です。
ご祈祷は予約願います。

3歳　平成28年生　男・女
5歳　平成26年生　男
7歳　平成24年生　女

七五三詣りは「かぞえ年」で行うのが本義ですが、諸事情により「満年齢」でもお参りされています。

「豊洲如水」「早島イ草」競演

鶴崎神社へ太鼓奉納十余年

ドン、ドン、ドドーン、ドン…！

鶴崎神社境内から新春の清澄な風を切り裂いて祝い太鼓の音が鎮守の森に響きます。元旦恒例となった豊洲如水太鼓＝中田誠一代表（55）＝と、多聞会早島イ草太鼓＝安原輝夫代表（74）＝の勇壮な奉納太鼓の競演です。

正月日和に恵まれた平成30年元旦、まず登場したのが豊洲如水太鼓のメンバー17人です。背中に神社の社紋「鶴の丸」を染め抜いたそろいの法被でキメています。

豊洲如水太鼓＝平成30年元旦

多聞会早島イ草太鼓＝同

半円形に囲んだ初詣客を前に、長胴太鼓や締め太鼓を据え、軽快なバチさばきを見せます。お得意のオリジナル曲「結（ゆい）」や「童心」、他グループとの2011年合同曲「絆」など数曲を披露しました。如水太鼓は平成16年に豊洲小学校OBで結成し、メンバーは現在25人です。大人は早高、西田を中心に地域外の人もいます。半数は豊洲小の男女児童です。鶴崎神社への元旦デビューは早く、結成2年後の同18年でした。

次に早島イ草太鼓が登場しました。ほぼ全員参加の25人が、背中に「多聞会」と入れたそろいの法被、子供は白いTシャツを着ています。

大勢が見守る中、子供は「三三七拍子」、「声援」、大人は「二百十日」、「集い」を、鍛え抜いた鮮やかなバチさばきでたたきました。

イ草太鼓は同14年に結成。大人のメンバーは町内のほかに茶屋町、総社、岡山の人もいます。半数以上は早島小の男女児童です。元旦の奉納太鼓は安原昇総代長（79）の要請で、10年ほど前から毎年奉納しています。

きびきびした動きの両太鼓が約30分ずつ出演。メンバーのきりりと締めた白い鉢巻きから汗が流れています。太鼓をじっと聴いていた幼稚園児は「小学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんが大人に負けないぐらいうまかった」と、びっくりしていました。

両太鼓とも各地から年間15～20回、出演依頼があり、早島で毎年秋開かれる児島湾干拓和太鼓フェスティバルにはそろって参加。鶴崎神社へは如水太鼓は元旦、春・夏・秋まつりの年4回、イ草太鼓は元旦のみの奉納です。

両太鼓のメンバーは「練習を積んで演奏レベルを上げます。初詣客と我々グループに福が授かるよう、奉納太鼓はずっと続けますよ」と、威勢よく話してくれました。

（取材／鶴崎神社総代　佐藤豊行）

お知らせ

神社のこと、氏神様のこと、知っているようで知らない事がたくさんあると思います。

境内の鳥居や狛犬、歴史などを実際に見ながら平易に解説する「神社教室」を開催致しますので、お誘い合わせの上、ご来社下さいますようご案内致します。

記

◆日　時　十一月三日（土）
（文化の日）
午後二時～三時まで

◆備　考
・どなたでも結構です。
・人数制限はありません。
・当日は十分前までにお越し下さい。
・参加は無料です。

「なんじゃもんじゃ」の奉納

岡山県護國神社宮司（前神宮筆頭禰宜）奥西道浩氏から「なんじゃもんじゃ」の苗木が奉納されました。

「なんじゃもんじゃ」の正式名称は「ヒトツバタゴ」でモクセイ科の植物。非常に珍しい花で、黄門様でお馴染みの徳川光圀（みつくに）公が「この花はいったいなんじゃ」と尋ねたことからこの名が付いたと伝えられています。五月に白い花を付け遠くから見ると雪が積もったように見えるそうです。

神宮の外宮勾玉池の辺に植えられています。

奉納された「なんじゃもんじゃ」の苗木

まいられぇ岡山

県内の神社仏閣を巡る

岡山の由緒ある社寺を巡拝して、歴史を学び、岡山の信仰を再認識するべく、今年も20の神社と39の寺院が参加して「まいられぇ岡山」が開始されました。

ガイドブックには、各社寺の縁起や見どころなど、幅広く紹介されています。

参加している神社、仏閣ではフォトコンテストとスタンプラリーが行われております。

参拝の証の「御朱印」とともに参拝時に捺印又は作品を撮影してみては如何でしょう。

〆切は下記の通り。

フォトコンテスト
（来年・4・30〆切）

スタンプラリー
（来年・6・7〆切）

応募用紙を兼ねたガイドブックは拝殿内に置いてありますので、ご自由にお持ち帰り下さい。

雪のような花を付けた「なんじゃもんじゃ」

総代の異動（平成30年6月30日付）

帯高南古開	
退任	新任
小川　英治 倉敷市帯高四五五ー四	岡　誠一 倉敷市帯高四三三

祭事暦

十月二十日（土）
鶴崎神社秋季大祭【供膳祭】［午前十時］
八幡神社秋季大祭［午後七時］
（露店あり）

十月二十一日（日）［午前九時］神幸祭

十一月十五日を中心に　七五三祈祷

十一月二十三日（金）［午後二時］
新穀感謝祭

一月二日（水）［午後二時］年始祭

毎月一日［午前九時］月次祭

※月次祭はどなたでも参列出来ますので、お誘い合わせご参拝下さい。

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております。

◆家内安全・交通安全・初宮詣・七五三詣・厄除・九星災難消除・安産・当病平癒・学業成就・その他

◆地鎮祭・上棟祭・家移清祓・埋井祭・改装清祓・解体清祓・神葬祭・霊祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。